

(四) 鮪^ほ霊^{れい}供^{いく}養^{よう}塔^{とう}

稲取の田町区公民館のある所は、十王堂^{じゅうおうどう}ばらいと呼ばれていましたが、ここに鮪霊供養塔が建っています。鮪霊供養塔の「鮪」とは、イルカやクジラなどの大きな魚のことであり、漁で獲られたイルカやクジラなどの霊を供養するために建てられた塔です。

この塔の高さは、約一・二メートルあります。塔が建てられたのは文政十年（一八二七年）ですが、台が建てられたのは安政二年（一八五五年）です。どうして塔と台が建てられた年が違うかは、はっきりわかっていません。しかし、これは弘化^{こうか}四年（一八四七年）の六月十七日に台風のような大きな時化^{しけ}があり、このときの大きな波によって台などが流されたのではないかと考えられています。

イルカやクジラなど大きな魚を獲る漁は、伊豆では稲取をはじめ東海岸の川奈^{かわな}、西海岸の安良里^{あらし}など各地で行われました。この漁は、

沖でイルカやクジラなどの群れを見つけると船で港に追い込み、若者などが海に飛び込んで捕らえるものです。このように漁は、若者を中心となつて行なわれるので、台石に稲取の浜三区の若者の代表者の名前が刻まれており、この漁の様子を伝えています。供養塔は、伊豆では川奈や安良里にもありますが、稲取のものが最も古いものです。

